



◆其の七十二

むらさき

皆さんは、紫草(むらさき)をご存じでしょうか。初夏に白く可憐な花を咲かせ、その根は紫色の染料として使われました。紫色の衣服は飛鳥時代以降、身分の高い人だけが身に着けることができる特別なものでした。

紫草は、奈良時代には九州各地で栽培され、古代の役所である大宰府に集められたことが木簡から分かっています。その後、都に運ばれて染料として使われていたようです。

平安時代には、太宰府天満宮が紫草を栽培した「紫田」を所有していたという記録があります。

市内には、紫という地名があり、この一帯には、かつて紫村がありました。江戸時代の記録によると「異国から持ち帰った紫草を初めて此の村に植えたことにより村名



になった」とあります。

「紫田」と「紫村」が直接結びつくような証拠は今のところありませんが、大宰府にほど近く、「紫」という地名が残るかつての「紫村」周辺は、「紫田」であった可能性を十分に秘めているのではないのでしょうか。

問文化財課

